

# インターンシップ 生徒アンケート調査結果

(一社) 福島県電設業協会

文部科学省における学習指導要領の改訂により、職業教育を主とする専門高校(学科)においては、「生徒が産業の現場などにおいて就業体験を行い、もって職業や産業の職場などを知り、将来の自分の生き方や進路を考えさせる」ことを目的として、在学中のインターンシップ(職場体験学習)をすべての生徒に行う制度として位置付けられており、当協会も趣旨を理解し平成8年度会津支部、16度よりいわき支部で実施していましたが、平成25年度よりは協会の社団法人化による、公益活動の一環として、また、優秀な人材の継続的な確保を行っていくためにも助成金制度の設立をし、全県的に積極的に実施しているところであります。

なお、インターンシップでは、生徒さんが学ぶ立場から「無給」とし、受入企業にも「インターンシップは採用選考の資料としない、進路の青田刈りに至らないよう」に配慮を求めました。

調査実施期間：平成26年6月～平成27年1月

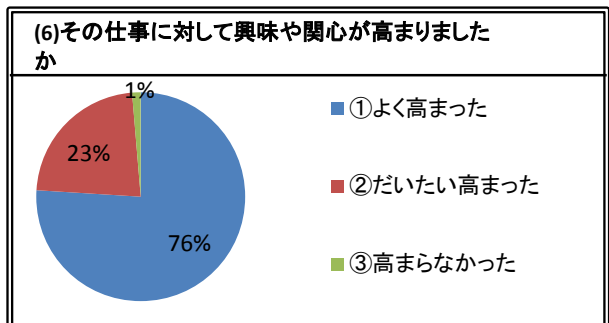
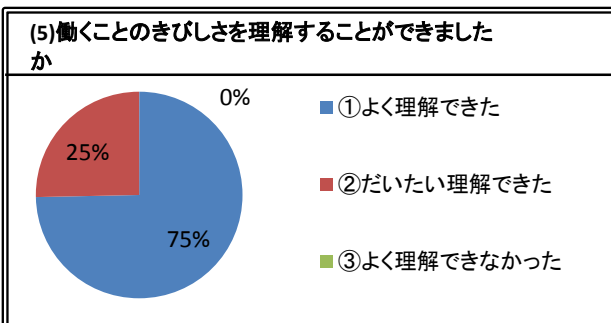
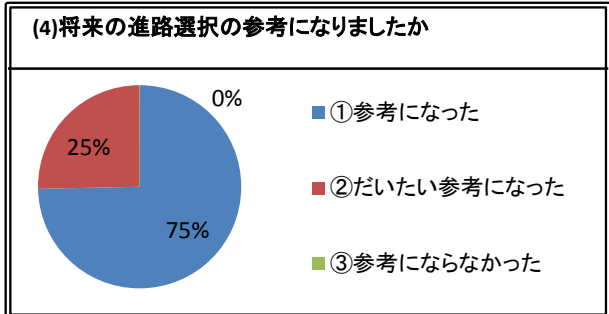
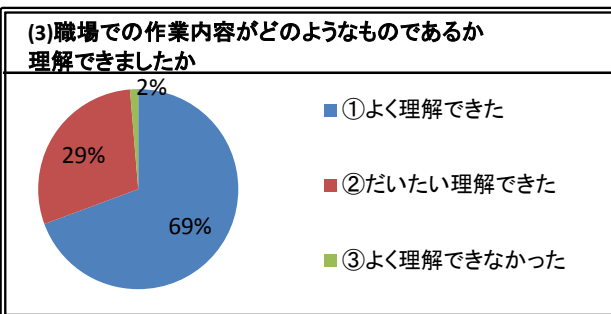
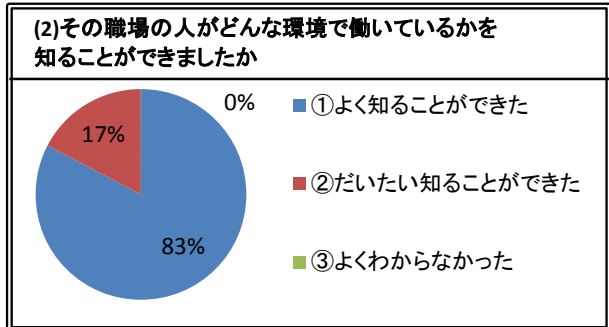
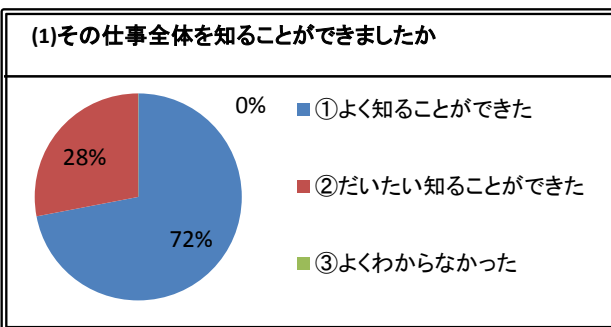
受入生徒数：106人(うち女子 3人)

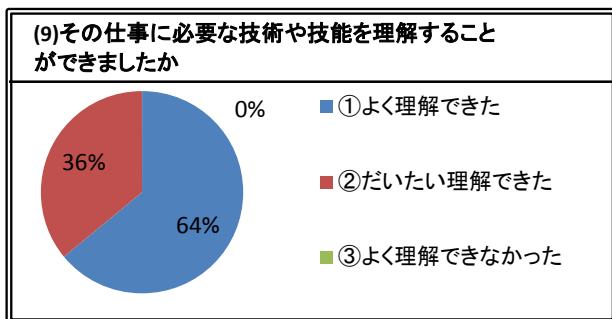
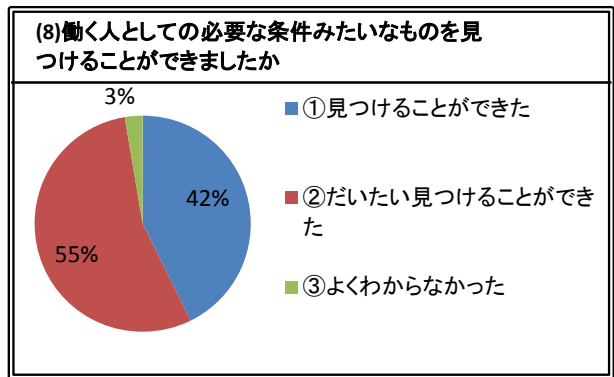
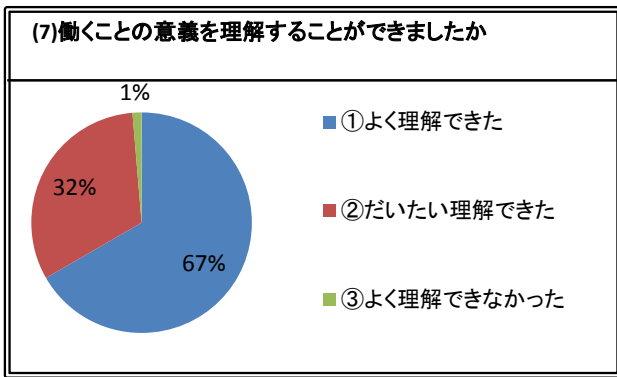
受入会員：41社

アンケート回答数：75名 回答率 70.75パーセント

## I. 「インターンシップの意義や目的」について

- ・今回の実習から働く職場とはどんなところなのか、作業内容などもほぼ理解できたようです。
- ・将来の進路選択にも参考になったのではないかと思います。
- ・働くことの意義、きびしさも理解できたのではないかと思います。





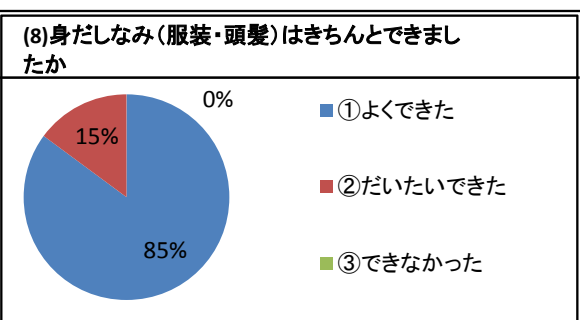
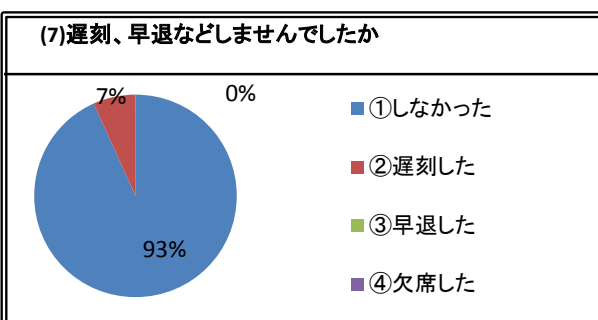
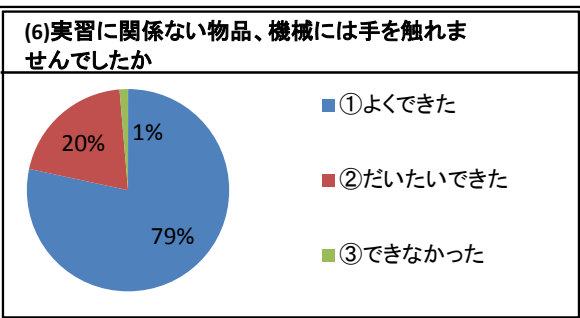
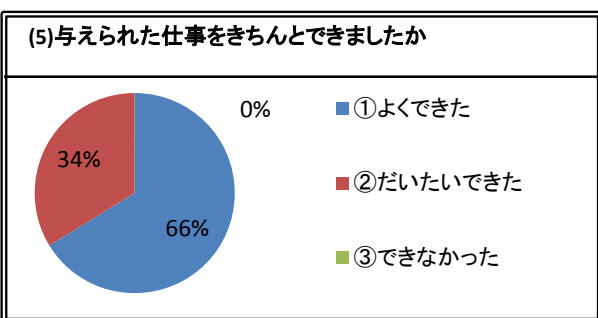
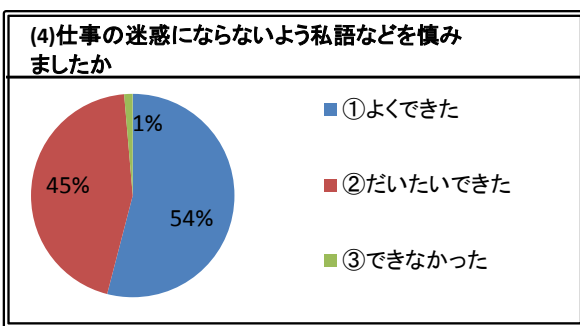
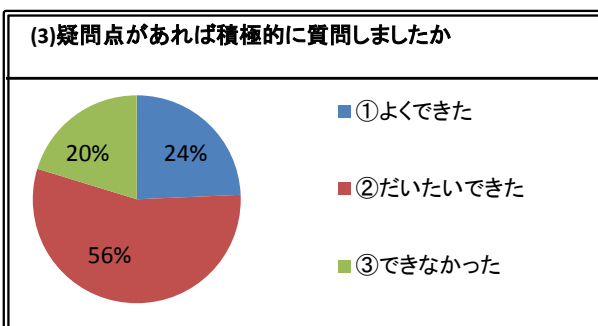
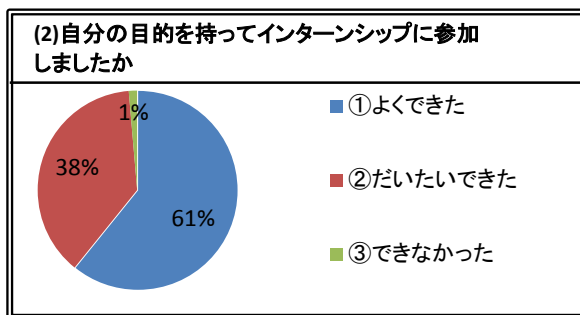
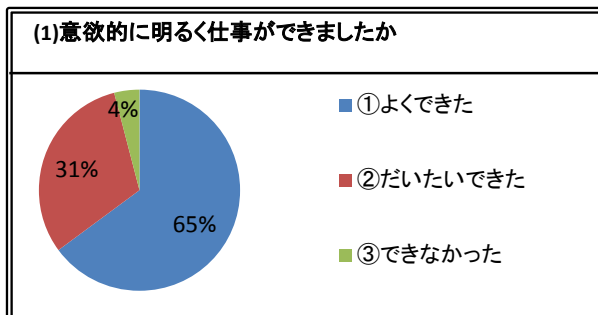
(10)またこの次インターンシップがあるとすると、どのようなものを希望しますか

- ・もっと詳しく仕事をしたい
- ・今回のようなインターンシップ
- ・電機会社
- ・電気工事
- ・もっと作業をしたい
- ・もっと知識を学びたい
- ・現場の作業
- ・電気関係の職場
- ・多くの作業現場を見学してみたい
- ・たくさんの作業が出来る〇〇電気会社にまた、行きたい
- ・もっといろんな事を体験したい
- ・働く大変さを教えてくれる
- ・作業などの手伝い
- ・専門的な技術
- ・ケーブル運び
- ・水力発電所を見学したい
- ・作業したかった
- ・実際に仕事がしてみたい
- ・警察官
- ・もっと大きな現場での体験
- ・分電盤の配線作業
- ・もっと大きな現場
- ・やりがいのあるところ
- ・電気のことを学んだので、ものつくりをやってみたい
- ・IT関係のある職場
- ・電柱を直している作業体験
- ・発電所
- ・工事現場での作業
- ・現場に行って、働いている人と話をしたり、作業したい
- ・もっといろんな職場
- ・楽しんで学べる事
- ・朝礼を見たい
- ・配線作業を見たい
- ・配線をつなぐ様子や、ライトを接続する作業
- ・もっと参加できたらよかった
- ・自分たちも参加できる実技的なこと
- ・屋内配線など

- ・「電気工事士」以外の電気工事
- ・雑用でもいいから作業に関わりたい
- ・CADを体験してみたい
- ・色々な作業をしてみたい
- ・もっと大きな現場
- ・工場の仕事も見てみたい
- ・もう少し現場体験したい
- ・他の仕事も体験したい

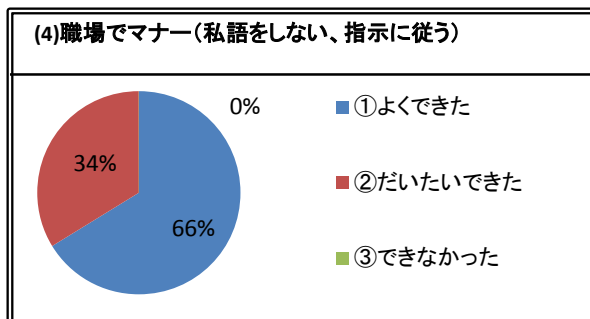
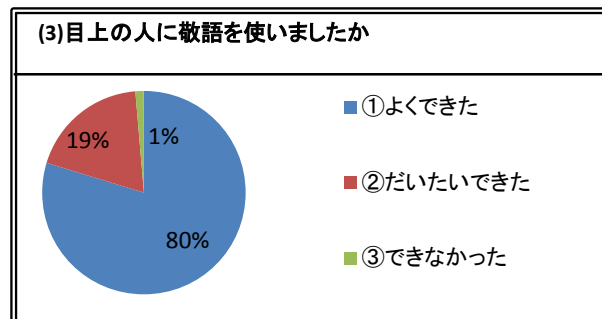
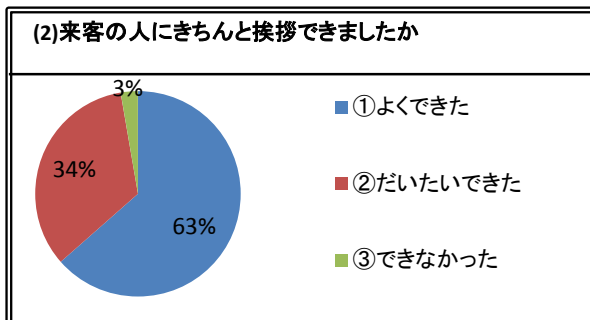
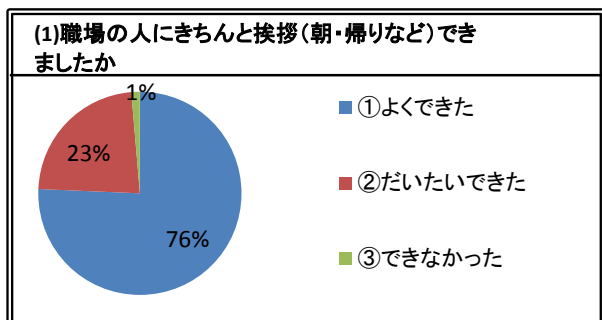
## II. 参加する態度について

- ・遅刻や身だしなみなどは、よくできていたようです。
- ・「意欲的に明るく仕事ができただか？」については、よくできなかったようです。初めての職場での就業体験で緊張していたのではないのでしょうか。
- ・「疑問点に対する積極的な質問」あまりできなかったようですが、仕事内容などの事前研修などが必要かと思えます。今後の課題かと思えます。



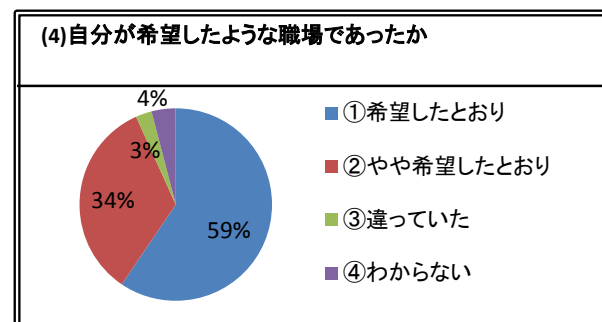
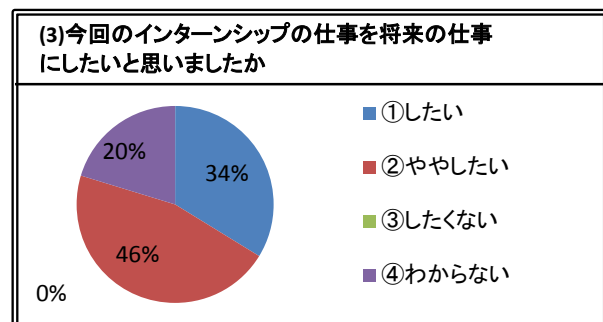
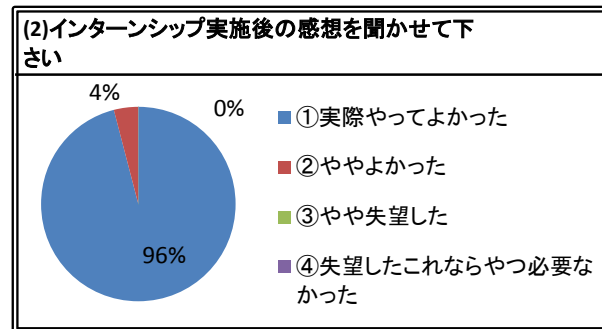
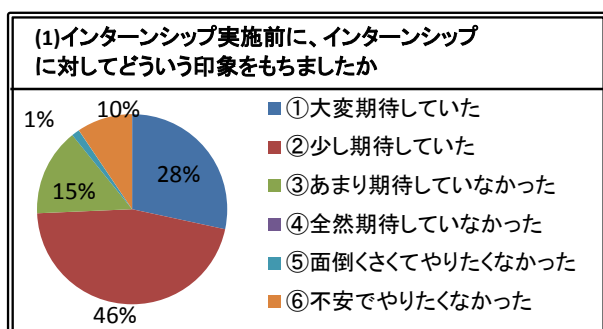
### Ⅲ. 「礼儀などマナー」について

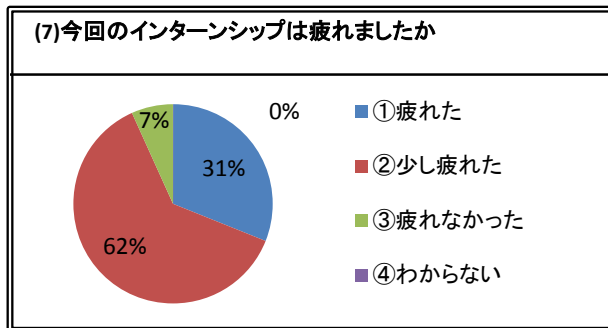
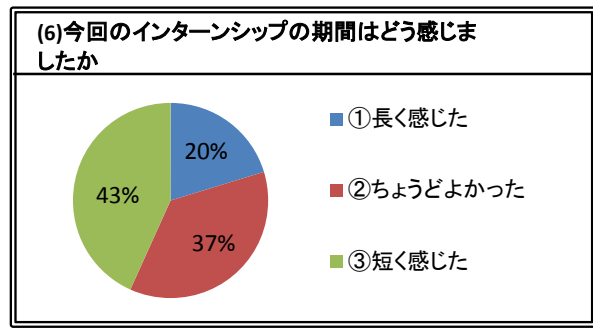
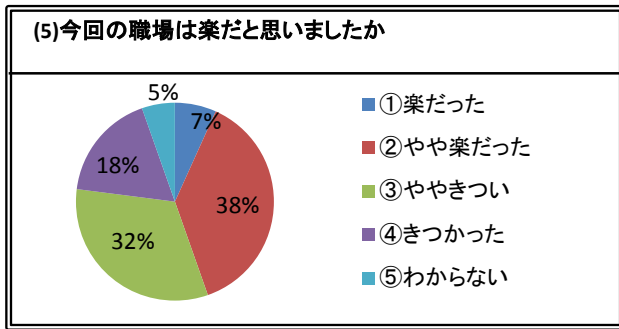
・職場の人などには挨拶ができたようですが、私語など職場でのマナーが不十分だったようです。



### Ⅳ. 「体験した職場」について

- ・実施前には「あまり期待していなかった」「不安でやりたくなかった」が約3割ほどでしたが、実施後、は「やってよかった」「ややよかった」が100パーセントで、生徒さんの評価はよかったといえる思います。
- ・「仕事を将来の仕事にしたい」かでは82パーセントの生徒さんがしたい、ややしたいと答えておりインターンシップを実施したことで理解を得たのではないかと思います。
- ・「自分の希望した職場」かでは、93パーセントが希望とおりに、やや希望したとおりと答えておりこれもインターンシップを体験したことで理解を得たのではないかと思います。
- ・「仕事がつらい」、「ややきつい」生徒が約半数いたのは実際に職場で働いてみて、仕事の大変さが分かってもらえたのではないのでしょうか。
- ・「期間」については各支部で3日から5日間とまちまちのため概な比較はできませんが、短く感じたが半数近くで意外な結果でした。





## V. インターンシップの今後の課題

- ・スムーズな実習ができるように、事前に目的意識をさらに徹底させるための十分な事前指導の実施。
- ・受入れ支部と学校の間で、事前に実施時期、期間等の打合せを行い、効果的なものとする。
- ・生徒さんの希望の希望として、「他の作業も経験したい」等の意見が多いため、協会としても基本カリキュラムの策定・充実などを検討したい。
- ・実習中の生徒の事故（傷病）が起きた時に対する学校との対応を徹底する。